

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 輸入段階でのインフレ圧力残存 (05年2月輸入物価) 指標発表日: 05年3月18日(金)

~原油・商品価格の上昇がインフレ圧力を高めるリスク~

(No. UI - 190)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001、4518 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

輸出入物価 (U.S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドル レート
		除石油	工業原料	石油	資本財	自動車			
04/02	+0.7	+0.4	+0.4	+1.4	+0.5	+0.0	+0.1	+0.1	+0.5
04/03	+0.8	+0.8	+0.2	+2.5	+5.1	+0.0	+0.1	+0.0	+1.0
04/04	+0.7	+0.2	+0.3	+1.1	0.2	0.5	+0.2	0.1	+0.7
04/05	+0.4	+1.5	+0.2	+5.1	+9.4	+0.0	+0.0	0.1	+1.6
04/06	0.7	0.2	+0.1	0.3	1.1	0.4	+0.2	+0.0	1.0
04/07	+0.5	+0.4	+0.0	+1.1	+2.3	+0.0	+0.1	+0.0	0.7
04/08	0.5	+1.5	+0.3	+5.0	+8.8	0.1	+0.2	0.1	+0.2
04/09	+0.4	+0.5	+0.1	+1.5	+3.3	0.1	+0.2	+0.0	0.4
04/10	+0.6	+1.6	0.1	+5.0	+11.1	0.2	+0.3	+0.1	1.4
04/11	+0.3	0.3	+0.9	1.3	6.0	+0.1	+0.1	+0.2	2.6
04/12	+0.1	1.4	+0.4	5.1	11.5	+0.3	+0.1	+0.3	1.1
05/01	+0.9	+0.7	+0.3	+1.7	+3.4	+0.3	+0.0	+0.5	+0.6
05/02	+0.0	+0.8	+0.2	+2.0	+3.9	+0.0	+0.0	+0.2	+0.2
05/03									1.0

(出所)労働省 (Department of Labor)

(注)末季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

*1:Automotive Vehicles, Parts & Engines

*2:Consumer Goods, excluding Automotives

除く石油では前月 比+0.2%にとどま った

2005年2月の輸入物価(最終財)は、原油相場の上昇を背景に石油・同製品が前月比で3.9%上昇したために同+0.8%(前年同月比+6.1%)と2ヵ月連続の上昇となった。市場予想である同+0.6%を上回ったものの、1月が0.2%ポイント下方改定されており、実質的には市場予想通りとなった。

一方、変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は、ドル安が進んだにもかかわらず同+0.2%(前年同月比+2.9%)にとどまった。石油を除く工業原料が同+0.3%、自動車が前月比横ばいとなった一方、消費財が同+0.2%、資本財が同+0.0%に鈍化したことで小幅上昇にとどまった。米国内での自動車需要が堅調なものの価格競争が激しいことから自動車の輸入価格が抑制されている。消費財では家具、時計、紙、衣服、バッグ等の下落によって伸びが鈍化した。さらに、資本財では一般機械・同部品、電気機械・設備、TV・VTR等、光学機器、医療機器、計測機器等のハイテク製品での価格下落が続いているため、前月比で横這い、前年比で下落している。

トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では石油が31.4%となったため、輸入物価は1.5%とマイナスに転じており、足下石油を含めた輸入物価全体の上昇圧力は緩和している。しかし、変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は+5.0%と伸びが高まっていることから、石油以外の輸入物価上昇圧力は徐々に強まっている。

アジアからの輸入 物価は低位で安定

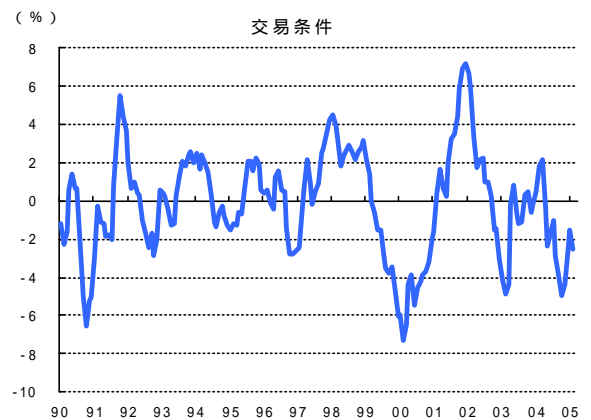
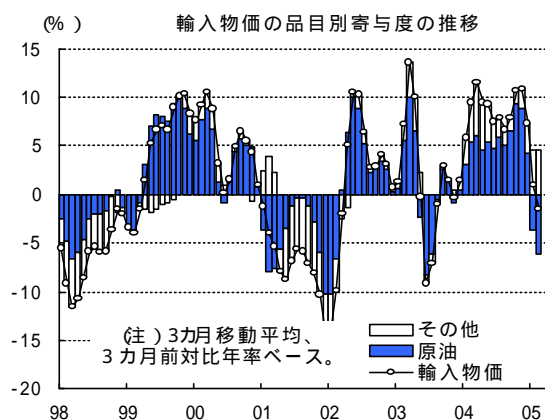
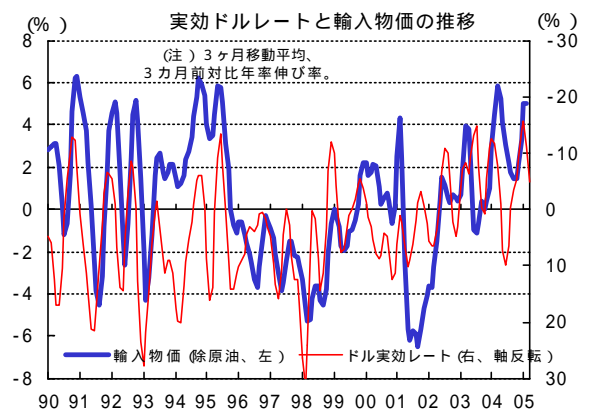
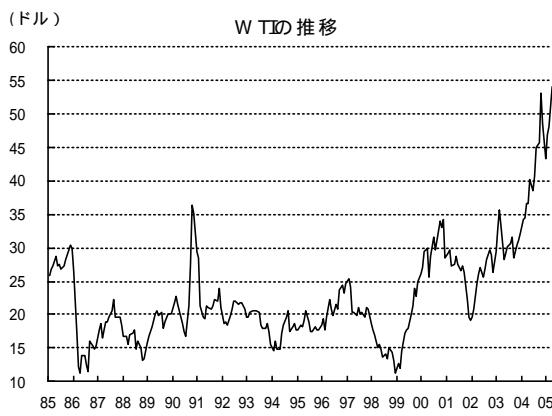
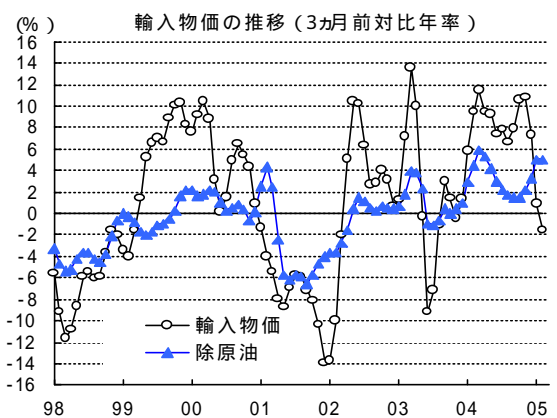
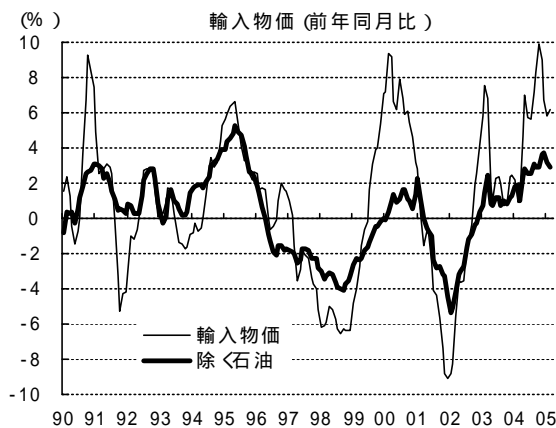
地域別の輸入物価をみると、石油価格上昇、対ドルでの自国通貨高の影響でカナダが前月比+0.9%(前年比+8.1%)、メキシコが同+0.8%(同+4.6%)、EUが同+0.3%(同+5.7%)上昇した。一方、アジアからの輸入物価をみると、日本が同+0.1%(同+0.8%)にとどまった。さらに、NIE Sが同0.1%(同+0.1%)と3ヵ月連続で下落し、

通貨元がドルペッグされている中国は横這い(同 0.5%)、ASEANが同 +0.2%(同 0.7%)とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価は抑制されている。

交易条件(輸出物価/輸入物価)は、輸出物価が前年同月比+3.4%とプラス幅が縮小したものの、輸入物価が同+6.1%と高い伸びとなったため、足元でマイナス幅が再び拡大しており、マクロでみた米国の対外収益性は悪化した。

今後も輸入物価の上昇圧力残存

今後の輸入動向を取巻く環境については、米国でのドライブシーズンを前に在庫水準が低いことなど世界的な原油需要の拡大に供給力が追いついていないとの見方が強まったため足下でWTIは最高値を更新している。今後も世界的な景気の拡大ペース加速に伴う供給不足懸念や、過剰な流動性を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。加えて、経常赤字の拡大によってドル実効レート的大幅な上昇も期待できないことから、輸入物価への上昇圧力が強い状況が続こう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。